

雨宿りの箱庭

PTSD 予防と華嚴の海

森下 温美

(関西医療学園)

I. 問題と目的

本報告は、筆者が『雨宿りの箱庭』と名づけているDV (domestic violence) シェルターでの箱庭の第8報である。

DV 被害は最近では虐待ともみなされるようになり、トラウマ化しても何の不思議もない理不尽極まりない記憶であることが、ようやく理解され始めている。

トラウマという禍根を残せば、後に PTSD 化する惧れがあるから、固着化しそうな心的エネルギーは、常にその発散場所を求めており、目の前に箱庭があれば箱庭をしようとすることや、DV に負けず、PTSD 化防止のために、個性化しようとする子どもたちの宇宙(河合 1987)の表現の輝きについて繰返し報告してきた。今回もまた、その普遍的意味に迫りたい。

II. 事例の概要

クライアント(以下 CI と表記)は、小学校5年生の女の子で、36歳の母親に連れられ、3年生の弟と1年生の妹と共に入所してきた。これまでも何度かいろんな場所に避難した果てに、母親が予め用意した荷物をもって、夜中にパジャマのまま、タクシーに乗ってやってきたという。母親は頭や背中中の痛みのために通院中であった。

III. 面接経過

#1 箱庭①

兄弟3人が箱庭を見学し、自分たちで順番を決めた結果、CI は三番目。控えめで思慮深く礼儀正しく、セラピスト(以下 Th と表記)の顔をじっとみて話をしっかり聞き、静かに取り組み、繊細かつ深みのある作品に仕上げた。

地門(右下)に切り株があるが、無意識にかがり火があり、滝の水を掬い取ろうと待ち構えるバケツが表現された。直後、家族揃って来室し、鑑賞している。

#2 12日後

順番争いになり、恒例のじゃんけんとなった結果、CI は二番目になったのだが、そのやり取りのなかで実は兄弟葛藤が凄まじいのを Th は知る。

箱庭②

走って来て、笑顔で開始し、静かに鬼門(右上)をうっそうと作りこんでいた。ビーズの表現の時「これ、いいか」と小さな独り言が聞こえた。完成すると、2羽のふくろうを指差し「ここにもいる」と言った。一時間くらいかけて制作したので、満足もあったのか、「今日はこれでよい」と言った。白化した珊瑚の前には食事の準備ができており、透明なガラスの犬がいる。人門(左下)に墓があり、水と花が添えられ、その上には井戸がある。後で兄弟が見学に来ている。

箱庭③

「今日はもう充分だ」と言っていたが、数時間後、気が変わったらしく走って来室。ザルや板を使って砂をダイナミックに動かす音がしばらく続いた。

人門に大きな海を作りこみ、男の子と女の子を遊泳させると、結界を守るように置かれたおもりの上に花が添えられ、珊瑚が赤く生氣を取り戻した。地門では食事の準備ができており、苔むした石をかがり火が照らして、天門(左上)にはカエルと小舟が出現し、切り株(トラウマ)の意識化も進んでいる。

#3 一週間後

スタッフより「母親の外出が続いており、3人ともストレスが高い。箱庭をしたいだろうから発散させてあげてください」と依頼され、声をかけたところ、3人ともやる気満々であったが、CI は二番目にやってきた。

箱庭④

中庭で6つ葉のクローバーを見つけたと言う。「どんなふうになるんだろうか」<めちやくちや幸福になるってこと? >と答えると、ほぐれて笑っていた。

妹と箱庭の話をしているらしく、鬼門に新しいテーブルを置いてみたが、結局はやめてデッキチェアセットを選択した。「小人の家と大きな人の国」との表現で、過去の記憶を相当相対化できている。温泉と河が出現したが、河は天門と地門を結ぶダイナミックな流れで、地門には寺が置かれている。また、鬼門の切り株の上に金魚鉢があり、花が添えられており、そ

れを透明なガラスの犬が見守っている。

箱庭⑤

自発的にやってきて制作した。妹に順番を譲られたようで、今回は一番最初であった。「これきれいー」と小声が聴こえるなか、箱庭③の時より、さらに大きな海に男の子と女の子が遊泳する。ただ浮かぶのみ。見えにくいのが、左には確かにクジラもいる。

#4 退所の日

3兄弟は Th にアイロンビーズの作品を作ってくれた。時間との闘いだと言いながら、真剣に集中して固める。CI のはハート型だった。

IV. 考察

1. トラウマと PTSD

DV という外からは覗い知れない小さな魂の傷つきを華嚴のインドラ網は優しく掬う。切り株や白化した珊瑚や苔むした石はトラウマを思わせるに充分だが、箱庭①の滝の急激な水の流れが、無意識に追いやられていた橋をかけるに相応しい美しい流れとなり、さらには海となった。海の水は空を映し、一切即一、事事無碍の詩的で美しくも哲学的な世界観がみごとに表現された。CI はそのようなことを意識的には知る由もないし、Th が教えたわけでもない。

心証や心象が【象徴】を形成し異熟させ続ける。【象徴】の【否認】即誤診であるから、我々にはトラウマと【象徴】の意味を研究しつづける義務がある。

2. 華嚴の海印三昧

「諸仏諸祖とあるに、かならず海印三昧なり。この三昧の遊泳に、説時あり、証事あり、行事あり」とは道元の主著『正法眼蔵』の『海印三昧』の冒頭である。

日本人の普遍的無意識には、【海印三昧】という名の【象徴】があり、傷ついたところが癒されることからすべてが始まる。この金太郎飴のように明白で普遍的な真理の原理原則を誰が否定できようか。

3. 一太極二陰陽のリセットの法則

吉野裕子(1999)によれば、わが国の古典文学はみな【一太極二陰陽】の哲学的法則で貫かれている。『竹取物語』や『源氏物語』の主人公の自己実現は、西洋の二元論では測り知れないわが国独自の個性化の過程の象徴そのものである。

<♪誰が生徒か先生か>の『めだかの学校』よろしく、師弟の区別ないお遊戯が大切で、この目高(お目が高い)な個性化コースでのリセットの法則は陰陽五行説の根本原理でもある。

この点が忘れられると、【適応論】に墮し、かぐや姫をわがまま扱いしたり、適応障害として取り扱い、【トラウマ】に直面させず、【否認】させるような専門家による二次被害が横行するのである。

4. 東大寺のお水取りと華嚴の海

国民の関心ごとの1つであるお水取りの儀式は、旧暦二月に華嚴宗大本山東大寺の二月堂で行われる。陰陽五行説によれば、東大寺の東は【木気】で【春】の象徴であるから、大いなる春を呼び込む呪術的意味合いが込められている。大仏はビルシャナムであり、宇宙を昼も夜も照らす存在であって、キリスト教の二元論や陰陽を越えた【一太極二陰陽】の真の自己のイメージそのものである。

而して、日本人の無意識表現にある水は、ただの水(H₂O)ではなく、お香水(こうずい)なのである。これを間違えると、クライアントの作品は単なる現実逃避の意味しかもたなくなり、真の支援から遠ざかる。

5. 天地の循環

天門と地門の循環は、『源氏物語』においても窺われるこの国の知識人の常識であるが、CI の無意識もまたこれを採用することで、元氣を取り戻している。

6. 食事と祈り

吉野が指摘する、神に食事を提供し祈る日本人の普遍的習性もまた CI により有効に多用されている。

7. 個性化の過程

DV シェルターでの箱庭は、応急処置のようなものだが、ここから個性化の過程というネバーエンディングストーリーが始まる。ニーチェの【橋】であり、千利休の茶道、剣道、柔道等に象徴される【道】である。漱石の『門』の主人公が崖の下から禅寺という異界に向かうところで物語は終わり、『崖の上のポニョ』はヒットしても家出し続け、かぐや姫には月での生活が待っているのである。浮き輪の子どもが気持ちよさそうに華嚴の海で遊泳し、トラウマが癒され無力化するのを、鬼門に置かれたポニョを思わせる金魚が待っている。CI が過去の思い出から家出し、新しい人生を生きたこと、つまりは個性化の過程を生きたことは、陰陽五行説や仏教なしに説明がつかない。

V. 文献

鎌田茂雄(1979)華嚴五教章 大蔵出版株式会社
河合隼雄(1987)子どもの宇宙 岩波新書
水野弥穂子(校注) 正法眼蔵 岩波書店
吉野裕子(1999)易・五行と源氏の世界 人文書院